

やちまた 男女共同参画だより

Vol. 30

特集 みんな、どこかしら痛い。

平成 29 年から発行を開始した本紙も 30 号の節目を迎えました。
今号は男女共同参画社会に実は関連している、健康課題の話題です。

「男女共同参画」で「更年期障害」？

朝起きて、「具合が悪いな」と感じたら、どうしていますか？

女性と男性は身体づくりが異なっており、年代によって直面する健康課題も異なっています。

例えば、婦人科系疾患など女性特有の健康課題は子育て期や仕事上のキャリア形成・キャリアアップの時期で多く、また、病気やけがなどで体の具合の悪いところがあるとする者の割合や、こころの状態で要注意とされる者の割合、悩みやストレスがある者の割合のいずれも、男性と比べて女性の方が高くなっています。

一方で、男性の場合は、一般的に女性と比べてキャリア形成・キャリアアップの時期において健康課題に直面することは少なく、変化も緩やかですが、自殺者数をみますと、全ての年代で男性が女性の2倍程度になっています。

自殺の原因や動機についてみますと、男女ともに「健康課題」が最も多くなっています。

	健康課題	総患者数が多い年代
男性	前立腺肥大症 がん(大腸・肺・胃など)	50 代以降
女性	月経障害や女性不妊症	20 代から 40 代前半
	子宮内膜症や子宮平滑筋腫	30 代及び 40 代
	乳がんや更年期障害、 甲状腺中毒症(バセドウ病等)	40 代及び 50 代

男性・女性特有の健康課題と総患者数が多い年代（抜粋）

長らく女性特有の健康課題とされてきた更年期障害について、近年では男性の更年期障害も注目されてきています。男女共同参画の一層の推進のためには、男女ともに、自分自身及び互いの身体の特性・健康課題に関する正しい理解が求められます。また、希望する全ての人が生き生きと働き、キャリアアップを目指すためには、それぞれの特性に応じた健康支援が必要となります。

裏面へつづく

痛い、だるい、しんどいを抱えて今日も働いている。

更年期障害に関わる症状の生活(仕事や家事・育児・介護)への支障の程度をみますと、「症状がみられ、更年期障害だと思う」女性の9割、男性の6割が生活に「支障があると思う」としています。

症状への対処法についてみますと、女性では「市販の薬や漢方、サプリメントを飲んでいる」を挙げる者の割合が最も高く、次いで、「ひどいときは休暇をとっている・休んでいる」、「病院や診療所に行っている」の順となっている一方、男性の7割、女性の5割が「特に上記のようなことはしていない」としており、更年期障害に関わる症状に対し、十分に対処できていない可能性があるのです。

更年期障害に関わる症状が出始めるのは仕事で大きな責任を負い、介護との両立が課題となる世代です。男女両方の更年期障害に目を向け、働きやすい社会にしていく必要があります。

トピックス

トランスジェンダーの選手は競技会に出場できないのか？

2月5日、ホワイトハウスに女性のアスリートらが集められました。

この日、就任して間もないトランプ大統領が署名したのはトランスジェンダーの選手が女子スポーツに参加することを禁じる大統領令です。2028年に開催されるロサンゼルスオリンピックを念頭に、女子の大会に参加しようとするトランスジェンダーの選手のアメリカへの入国を拒否するよう制度を見直すほか、国際オリンピック委員会にトランスジェンダーの選手の参加を認めないよう求めるとしています。

このやちまた男女共同参画だより(Vol.28)でも取り上げましたが、トランスジェンダー(出生時に割り当てられた性別とは異なる性自認を持つ)であることをカミングアウト(公表)した選手が、自認する性別カテゴリーで出場する権利を得たのは「多様性と調和」を掲げた2021年東京大会のできごとでした。

今もなお、トランスジェンダーの選手が競技会に参加するに当たっては「公平性」の観点から今でも国内外で多くの議論が交わされています。

一方で、トランプ大統領は署名式で「ロサンゼルスオリンピックで私の政権は男性が女性選手を打ち負かすのを黙って傍観することはない」と述べました。

みなさんはどう思いますか？

